

練学歯だより

No.30

練馬区学校歯科医会広報

<http://www.nerigakushi.tokyo>

2025 年 3 月 発行

目 次

p.1	ご挨拶	練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二
p.2	令和6年度練馬区学校歯科医会と 練馬区教育委員会との研修協議会	泊 昌人
p.3	第75回関東甲信越静学校保健大会の参加報告	西 克昌
p.4	第88回全国学校歯科保健研究大会の参加報告	西村 滋美
p.6	令和6年度全国学校保健・安全研究大会参加報告	西村 滋美
p.7	小学校校長との協議会という試み	穂坂 康朗
p.8	令和6年度児童生徒の歯と口の健康事業推進委員会	浅見 律
p.9	学校紹介	
p.11	新入会員の声	



会長挨拶

練馬区立石神井西小学校学校歯科医 草柳 英二

会員の方々には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は学校歯科衛生活動に格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

令和6年度は、新生活様式による影響を含む学校歯科保健事業が遂行されました。「新型コロナウイルス感染症」やインフルエンザ等の感染症が根底に浸透されるなか、我々は日常生活の中で、感染症対策を考慮しながら安定した学校歯科保健活動を、実施してまいりました。

しかしながら、新生活様式による新たな弊害も表面化しております。

低所得者の家庭やシングルマザーの家庭生活から、児童虐待やネグレクト等の増加や、児童生徒による不登校傾向およびヤングケアラーなどの課題が、際立ってまいりました。

これらのことは、本会の学術委員会調査研究にも報告されております。

身近な課題では、学校歯科健康診断時における歯列・咬合の取り扱いの対応策等をも考慮してまいりました。行政の対応策としては、本年4月から歯科矯正相談料が新設されましたので徐々に解決されるかと思えます。

練馬区学校歯科医会は、本年も児童・生徒の歯と口の健康推進事業として、「給食後の歯みがきとフッ化物洗口の推奨」を最重要課題として取り組んでまいりましたが、来年度も重点的に尽力をして参る所存です。

今後も私たちは、練馬区学校歯科会の伝統を継承し、練馬区歯科医師会および練馬区歯科医師連盟と共に練馬区の児童・生徒のために学校歯科保健活動に邁進してゆきたいと願っております。

令和6年度練馬区学校歯科医会と 練馬区教育委員会との研修協議会

練馬区立豊玉小学校学校歯科医 泊 昌人

令和6年度は7月4日と12月26日に協議会を行いました。

第一番目は給食後の歯磨きの推奨であります。練馬区学校歯科医会では、平成27年以降長年にわたり給食後の歯磨きを推奨してきましたが、残念ながらなかなか実施校の数は増えません、給食後の歯磨きは虫歯の予防、歯肉炎の予防対策にも効果的です。

特に本年度は小学校12校・中学校4校へ5000本あまりを、教育委員会を通して各学校へ配布しました。口腔内の清潔を保つ事はインフルエンザ等、感染症の予防になります。

練馬区学校歯科医会は小・中学校へ歯ブラシの配布を平成30年9月より毎年遂行しております。

次にフッ化物洗口の勧め。練馬区学校歯科医会は平成27年より、練馬区の「児童・生徒の歯と口の健康推進事業委員会」に於いて区内の児童・生徒の歯と口の健康管理を考慮し、幼稚園～各学校等での集団虫歯予防としてフッ化物を用いてブクブクうがいをする洗口を推奨し、その実施を現在まで提案してまいりました。フッ化物の働き、フッ化物が唾液の中にあると再石灰化のスピードが速くなるばかりか、歯の表面の結晶を徐々に固く大きなものに変えていきます。その結果、酸に対しての抵抗性が強化され虫歯になりにくくなります。

今年度の教育委員会との協議会においては、**1.昼食後の歯ブラシ 2.フッ化物洗口**この2つを教育委員会に強く要望しました。



参加の先生方

第75回関東甲信越静学校保健大会の参加報告

練馬区立早宮小学校学校歯科医 西 克昌

令和6年8月1日(木)新宿のビジョンセンター西新宿にて第75回関東甲信越静学校保健大会が開催され、練馬区学校歯科医会からは草柳英二・泊昌人・西村滋美・浅見律・西克昌の5名が会場参加しました。

午前中の特別講演は、公益財団法人日本相撲協会で荒汐部屋先代女将の鈴木ゆか氏による「相撲部屋の365日」で、高校を卒業したばかりの若者を、いかに新しいやり方でまとめていくかの苦労話をされました。

午後からの班別研究協議会では、「生活習慣病の予防等を目的とした歯・口の健康づくり」に参加しました。講演者は新潟県胎内市立築地中学校養護教諭菅原菊子先生と千葉県鴨川市立田原小学校養護教諭富永綾華先生で、お二人とも歯科健康診断を通して精力的に学校保健に取り組んでおられました。

午後4時からは、同じ建物の別会場で歯科職域部会が開催されました。講演は、昭和大学歯学部口腔衛生学講座教授弘中祥司先生による「児童生徒の口腔機能の発達不全について」でした。

直近10年間で義務教育段階の児童生徒は1割減少する一方で、特別支援教育を受ける児童生徒は倍増し、発達障害があっても普通学級にて教育を受ける児童生徒も増えているとのことでした。

その後、会場をハイアットリージェンシーに移して交流会が開かれました。



第88回全国学校歯科保健研究大会の参加報告

都立石神井特別支援学校学校歯科医 西村 滋美

今年度の全国学校歯科保健研究大会は、長崎の出島メッセで10月17日(木)に開催されました。開催方法は、出島メッセでの現地と今回学会初の試みのメタバース(WEB)配信でのハイブリッド開催となりました。会場は、駅から直結の濡れずに行かれる建物で、昨年5月に日本小児歯科学会の本大会と同じ会場でした。昨年訪れた時より、長崎駅前の開発がどんどん進んでいて、駅ビルもとても近代的になっていて驚きました。

今回は、特別講演で、ジャパネットたかたの創業者、高田明さんの講演「夢持ち続け日々精進」を聞くことがとても楽しみでした。ご存知の先生もいらっしゃると思いますが、なんとジャパネットグループが長崎市内活性化のために中心地を購入し、サッカースタジアムを中心に「長崎スタジアムシティ」を建設しました。

10月14日に「長崎スタジアムシティ」が本格開業するにあたり、13日に歌手の福山雅治さんがこけら落としのフリーライブを行っていた映像を、大会に行く前にテレビのニュースや朝のワイドショーで観ていましたので、どんな様子で話をされるのか楽しみにしていました。期待通りに“口は生きる入口である”を熱く語ってくださり、とても大切なことをお話しされました。

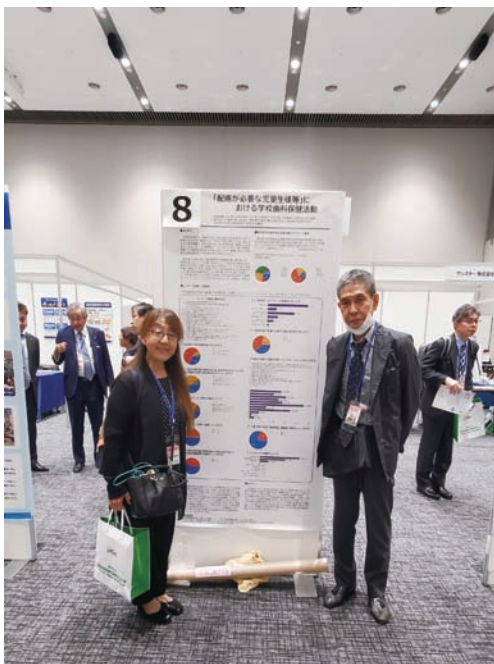
シンポジウムは、「学校歯科健康診断の未来図～学校歯科健康診断におけるDXの可能性～」という演題でした。数年前は、いつ頃に実現できるのだろうかと思っていた健康診断の結果情報を、公務支援システムで電子管理化されたデータを、児童生徒・保護者等がマイナンバーカードを活用してマイナポータル上で閲覧できる「学校健診PHR」の実施に向けて、いろいろな分野でどんどん研究開発が進んでいるようで、特に専門的な講演の部分は頭がついていけませんでした。昨年も同様な講演がありましたが、個人情報データであり、ITに疎い私は、セキュリティ対策が心配です。

領域別研究協議会は、今回も後日のオンデマンド配信で行われました。私は特別支援教育部会を拝聴しましたが、聾学校での就学前からの聴覚障害児への口腔衛生指導の関わり方を知ることができ、とても勉強になりました。

メタバース参加は、会場参加でどのようになっているのかわかりませんでしたが、オンデマンドの仮想会場ではアバターになって参加できました。今回は東京都学校歯科医会のポスター発表に共同演者で参加させていただいたので、アバターでもポスターを観に行きました。

来年は、10月16日(木)・17日(金)広島国際会議場で久しぶりの2日間の開催となり、領域別研究協議会もリアル開催になる予定です。特別講演の講師は、青山学院大学陸上競技部監督の原 晋さんです。帰る前に、原爆資料館と片足鳥居・被曝クスノキがどうしても観たくなり、急ぎで寄ってから飛行場に向かいました。まさに、先日ノーベル平和賞を受賞したこともあり、資料館には胸につまされる更にとたくさんの展示がありました。

来年は、より多くの会員の先生方にもぜひ参加して頂きたいと思います。



会場風景



片足鳥居

令和6年度全国学校保健・安全研究大会参加報告

都立石神井特別支援学校学校歯科医 西村 滋美

今年度の大会は、11月7日(木)・8日(金)宮崎県のシーガイアで行われました。

この大会の参加者は、全国の幼稚園・認定こども園・小中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長先生・養護教諭・教職員・学校医・学校歯科医・学校薬剤師・教育委員会・PTA会員などの全国学校保健・安全研究大会であり、大きなメイン会場もほぼ満席に近い状態でした。

今回の記念講演は、東京大学大学院講師の鎌田真光先生の「子供の身体活動・運動の現代的課題と解決策～今、学校・地域・社会がやるべきことはなにか～」という演題でした。

世界的に身体活動の不足(運動不足)が広がっていて、その状況は悪化しており、日本における死亡原因(リスクファクター)では、喫煙や高血圧について3番目として指摘され、時間をかけてじわじわと体に害を与えていくことから「サイレントキラー」ともよばれているそうです。子供の頃(5～17歳)の身体活動の健康への効果としては、循環器や骨の健康・脂肪の低減・心の健康・体力・睡眠などに多様な効果があります。日本の子供・青少年は、世界的にみると「活動的な移動手段」について高く評価され、徒歩や自転車通勤している児童・生徒が多く、通学距離の基準をはじめとした学校廃止に関する教育行政上の措置や登校班の取り組みおよび地域住民等による交通安全見守りやスクールゾーンの設定といった道路交通法制度上の対策などの活動的な通学手段を支える多面的な取り組みが、長年にわたって行われてきた経緯があり、他国からも注目され運動部などの部活動での活動量も評価されているようです。しかし最近、学習以外でテレビ・DVD・ゲーム機・スマートフォン・パソコン等の画面を視聴する時間(スクリーンタイム)が増えていることにより、家族や仲間との交流時間気が減少し、「よく体を動かす子」と「動かさない子」の2極化が増えてきているようです。それらの講義をうけたあと、副題について隣席の参加者と短時間でしたがトーキングワークを行いました。あちこちで会話がはずみ、会場がとても盛り上がりました。

その後は、すぐに同じ建物を移動し、第74回全国学校歯科医協議会に参加し、東京科学大学の相田潤教授の「児童生徒の健康格差の問題および新型コロナウイルス感染症の影響について」という演題の貴重なデータが満載のご講演を拝聴しました。

来年は近隣の神奈川県が主催ですので、会員の先生方のご参加をよろしく願います。

小学校校長との協議会という試み

練馬区立開進第四小学校学校歯科医 穂坂 康朗

今まで行われていた小学校や中学校の校長先生との研修会が、コロナ禍によってもう5年ほど行われないうちは過ぎ、コロナ禍がようやく落ち着いたとはいえ、感染対策をより厳しく考えなくてはならなかった今、従来通り開催すべきか、形を変えてまた行うべきか、もう暫く開催すべきではないのかを練馬区学校歯科医会として検討してきた。

練馬区教育委員会とも協議を重ね、どうすべきかを模索していた中で、一部の小学校の校長先生から少人数でも良いので一度会合を設けてみてはどうかというご提案を頂き、練馬区学校歯科医会の役員と小学校校長会の会長・副会長医・練馬区教育委員会の三者での協議会が、昨年10月24日に初めて行われた。

従来行われていた校長先生との研修会のような飲食を伴う宴席のようなスタイルではなく、歯科医師会館の会議室で対面で厳粛に行われた。校長会の先生方からは、コロナが5類の感染症になってからの現在の生徒の状況、例えばマスクの着用の有無や手洗い・うがいの習慣化、給食時の前向きでの食事や黙食の現状などをお話頂き、現在の小学校での感染対策やその実際を教えて頂いた。

それらの小学校での現状を踏まえ、練馬区学校歯科医会としては今まで推し進めてきた学校におけるフッ化物洗口や給食後の歯磨きの実施が可能かどうかを提案し、学校としては水道が少ない・昼休みの時間に制限があるなどの問題を抱えながらどの程度まで行えるのかを協議した。

結論としては、学校ごとに生徒数の違いや洗い場の設置数や時間的制約などから、画一的にすべての小学校で実施することは難しく、またひとつの学校の中でもすべての生徒に励行することは各生徒や保護者の考え方なども障壁となる可能性もあることから、簡単に実現できる課題ではないことが明らかになった。

しかし学校歯科医としては、フッ化物による洗口や食後の歯磨きは齲蝕や感染の予防に効果的なことについては十分な証明がされていることから、学校歯科医や教師それぞれが少しずつでも行う生徒が増えていくよう提唱を続けていくことに今後も努力していくことを確認し閉会となった。

今回コロナ禍を経験した後の感染対策を踏まえ初めて小規模で開催された小学校校長会との協議会であったが、お互いの立場を理解しながらより踏み込んだ意見交換が行われたように感じた。コロナ前に比べ、異常とも言えるほど感染対策が問われる今、形を変えた協議会の試みは十分に成果があったと思われた。

令和6年度児童生徒の歯と口の健康事業推進委員会

練馬区立開進第一小学校学校歯科医 浅見 律

令和6年11月14日(木) 午後3時半より練馬区役所19階1901会議室にて令和6年度 児童生徒の歯と口の健康事業推進委員会が昨年に引き続き開催されました。出席は練馬区学校歯科医会から草柳会長・泊副会長・西専務・浅見総務担当理事西村学術担当理事の5名、小学校保健研究部から5名、養護部会より5名、区役所健康推進課より衛生士代表2名、区事務局3名が参加されました。草柳会長、区保健給食課 唐沢課長の挨拶の後、委員紹介をして本日の議題に入りました。

最初に小学校保健研究部と養護部会から、令和5年度の歯と口の健康事業実績調査報告と令和6年度実績調査の説明があり、次に健康推進課衛生士代表から令和6年度歯磨き巡回指導中間報告 令和7年度歯磨き巡回指導の実施に関するお願い、令和7年度歯磨き巡回指導日程調整決定までの流れ 歯と口の健康に関する図画ポスターコンクール募集の案内の説明がありました。

また協議事項として、養護教員よりコロナ禍以降の学校教育現場における感染症予防対策、給食時の対応やマスクの着用、手洗いやうがいの現状についての説明がありました。

続いて練馬区学校歯科医会から活動報告および西村学術担当理事より「給食後の歯みがき」と「フッ化物洗口」の推進についてという題目での協議事項の説明がありました。

練馬区学校歯科医会は平成27年より練馬区の幼稚園・各学校等での「給食後の歯みがき」と、「フッ化物洗口」を推進し実施を現在もなお提唱していることを説明、また令和元年12月に新型コロナウイルス感染症が報告されてから令和5年5月に厚生労働省が感染症の2類から5類に移行した時期までを練馬区の児童生徒への学校歯科保健活動についての報告、さらに令和4年に本会が区内の幼稚園・小中学校・高等学校・特別支援学校の養護教諭に実施した「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大における学校歯科健康診断についての養護教諭対象アンケート調査」から得られた内容の報告でした。

今年度も練馬区学校歯科医会と学校現場と行政の関わった、児童生徒の歯と口の健康に対する協議という目的に則った会議となりました。





学校紹介

練馬区立豊玉東小学校

学校歯科医 治田 晶彦



開校まもなく校章選定委員会が発足し、校章图案の募集を生徒、保護者に呼びかけました。数多くの力作の中から、当時2年生に在籍していた生徒さんの作品に決定しました。桜の花弁を重ね合わせて単純化し、みんなの努力が実って美しく花開き、南が丘中のこれからの発展を象徴しているという意味と期待が込められています。

私が学校歯科医を務めさせていただいている「練馬区立豊玉東小学校」は、昭和29年に開校し、本年2024年に開校70周年を迎えました。私はこの内の30年間に関わらせていただいています。

2014年の開校60周年では、校歌記載のクリアホルダーが制作され私も頂きました。現在の生徒数は355名で私が就任した平成5年当時より100名程増えています。

学校歯科医としての活動は、春季健康診断を2日間と秋季健康診断を1日で実施しています。その他に1年生・4年生・6年生の歯科保健授業に参加担当しています。歯科保健授業では、一年生には養護教諭がメインとなりテレビ紙芝居で6歳臼歯の話をしています。四年生には保健所衛生士による口腔内の健康についての話や歯垢染色によるブラッシングの注意点等の話を聞いてもらっています。六年生には、雑談的に歯による個人識別の話やカリエスの原因や発生機序、ヒト以外の動物の歯の話(象の臼歯や鯨の歯の抜け替わり、恐竜の歯から考える食性等)の話をしました。

また、学校保健委員会も開催され、学校医・薬剤師・栄養士・PTA役員が出席しています。この保健委員会の中でも、私は古参委員になってしまいました。

最後に、豊玉東小学校の教育目標を掲載させていただきます。

【教育目標】

- あたたかい心をもち人と協力する子ども
- すすんで考えくふうする子ども
- けんこうでねばり強い子ども





学校紹介

練馬区立南ヶ丘中学校

学校歯科医 栗田 正明



開校まもなく校章選定委員会が発足し、校章图案の募集を生徒、保護者に呼びかけました。数多くの力作の中から、当時2年生に在籍していた生徒さんの作品に決定しました。桜の花弁を重ね合わせて単純化し、みんなの努力が実って美しく花開き、南が丘中のこれからの発展を象徴しているという意味と期待が込められています。

本校は、今年開校45年を迎えました。学区域は練馬区の中央部南に位置し、南側は杉並区に、南東側は中野区に接している区境にある学校です。学校の東側に環八通りと笹目通りが合流(分岐)する地点がありますが、学校の周りには畑や竹林があり、緑多い閑静な住宅地の中にある学校です。南が丘中学校の特徴を二つ紹介します。一つ目は、季節の移ろいに合わせ装いをかえる前庭です。生徒たちは、この前庭の木や花から新しい一日の始まりのエールをもらいます。早春の訪れを知らせる紅白の梅。別れと出会いをする桜花に芝桜。初夏の萌黄色の若芽や新緑の葉。背を伸ばすように青々とした濃い緑をたたえる桜とケヤキ。秋の深まりを刻々と告げるイチョウ。新たな春の準備をしつつ、白雪と共演し墨絵の世界を醸す木々。前庭の草木それぞれが、季節毎の豊かな空間を作っています。

もう一つは、生徒が伝統として受け継いでいる学校生活の合い言葉です。「あ・じ・み・こ・し」です。挨拶、時間、身だしなみ、言葉遣い・心づかい、姿勢、それぞれの頭文字です。卒業生たちに、南が丘中学校の良いところだと聞くと、ほとんどの生徒から「あじみこし」への取組です、と返ってきます。いつから始まったかは定かでないのですが、「あじみこし」の合い言葉の元、生徒同士でお互いを認め合いながら豊かな学びの場を作ろうと、学級、学年、生徒会、それぞれのレベルで取組んでいます。(第13代宮田健史校長談)

平成11年に学校歯科医に着任して以来、いつ訪れても明るい挨拶で生徒の皆さんが迎えてくれます。

【沿革】

1979年(昭和54年)

- 4月1日 石神井南中学校内で開校
- 4月18日 標準服制定
- 5月1日 この日を開校記念日として制定
- 6月1日 現在地に移転
- 9月10日 校章制定
- 11月27日 校旗完成

1980年(昭和55年)

- 2月15日 校歌制定

2023年(令和5年)

- 4月現在、1学年から3学年まで各学年3クラスと特別支援学級E組の計10クラス293名の生徒数

一	白い校舎に 明るい日ざし お早ようお早よ 声もさわやか 笑顔でむすぶ こころこころ 花壇の花も 迎えてくれる	桜井勝美 作詞 渋谷沢兆 作曲
二	窓に流れる 愛のメロディ チヨークの音と かがやく瞳 庭ではさむ ボールのひびき 若いいのちの つばみはひらく	
三	南が丘の 手すりによれば 緑の風に ふくらむ理想 みんな手とり こころゆたかに 未来をひらく 環をひろげよう	
ああ われら われらの 南が丘中学校		

新入会員の声

学校歯科医に就任して

練馬区立開進第一中学校学校歯科医 漆原 剛起

本年度より学校歯科医会に入会させていただきましたるしばら歯科クリニックの漆原剛起です。わたしは、2009年に日本大学松戸歯学部を卒業しました。研修医修了後、約3年間埼玉県内の診療所に勤務した後に練馬区平和台にある実家のほど近くで開業し現在に至ります。今回、笹川先生の後任として担当させていただきます。開進第一中学校は、昭和22年に開校した歴史のある中学校で父の母校でもあり、地元の友人にも数多く卒業生がおります。



本年度は、初期研修で学んだ診断基準などをしっかり復習し感染対策など十分に配慮し、4月と6月に2日間に分けて440名ほどの生徒の健康診断を行いました。結果の感想として、う蝕罹患者は少なかったものの多く目立つと感じたのは歯列不正と歯肉炎でした。保健所や保育園および幼稚園での健康診断の経験から小児のう蝕罹患者の減少は目にしておりました。

歯列不正に関しては、口呼吸などに代表される習癖や食生活の変化などによる口腔周囲筋の未発達に起因する歯列不正が増加していると以前から講習会などで耳にしておりましたが、実際に健康診断した中学生の永久歯列においても多くみられたと実感した次第です。

中学生は、小児から大人への変化の時期であり心理的にも多感な時期にあたる一方で、成人に向けるような説明なども理解できる年頃であると思いますので、それに見合った保健指導や健康意識の向上などができるよう努めたいと考えております。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和六年に練馬区立泉新小学校の学校歯科医に就任しました田家亮太郎です。叔父が学校歯科医を務めていた際には同行し、多くの児童の健康診断を行い、保護者向けの講演にも参加した経験があります。この度、新たにこの役割を担うことになり、過去の経験を最大限に活かして子どもたちの健康を守るために尽力したいと考えています。



保護者向けの講演では、家庭での口腔ケアの重要性を強調し、子どもたちの健やかな成長を支えるための知識を共有してきました。この経験を踏まえ、学校歯科医として、保護者や教師との連携を密にしながら、児童一人ひとりの口腔健康を守ることが私の使命です。

小学生は成長期にあり、口腔内の変化が著しい時期です。現在、う蝕に関しては12歳児DMFT指数の全国平均は0.56(令和四年度)で世界的にも良好な水準です。しかし、歯肉炎や不正咬合については増加傾向にあります。これらの問題に対応するためには、適切なケアと早期の対応が必要です。これらの課題に積極的に取り組み、子どもたちの健康な歯と笑顔を守りたいと考えています。

限られた時間と設備の中での健康診断ではありますが、精度の高い診断を心がけていきます。また、保護者や教師との連携を強化し、学校全体で子どもたちの健康を支える体制を整えることに努めます。

今後も、学校歯科医としての責任を全うし、子どもたちが健やかに成長できる環境を整えるために尽力します。皆様のご指導とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

執行部・学術委員会・ホームページ委員会

【執行部】



後列左より浅見理事、西村理事、樋口理事、西専務理事、羅理事
前列左より名古屋監事、山室顧問、穂坂副会長、草柳会長、泊副会長、渡辺監事

【学術委員会】



左より瓦井委員、大川内委員長、佐藤委員(モニター)
生田副委員長、大塩委員

編集後記

「練学歯だより」の原稿も本会の「すずしろ」と同様に行事の報告が多くなります。
改めて文章として報告を読むと、練学歯の行事は様々で、その多数に参加している理事の先生方には本
当に頭が下がります。

羅 均

令和6年度練馬区学校歯科医会の年間行事は、毎年の事業計画に則し無事遂行されました。会員の
先生方及び理事者のご尽力による事と感謝の意を表します。秋には第88回全国学校歯科保健研究大
会医会に出席、特別講演では、「学校歯科健康診断に未来図でAIの活用・教育においては、AI技術の
応用により医療の質を向上」で、現況では口腔内のデータ不足によりまだまだ道のりは先のようです。
測定するスキャナー等も理由の一つのようです。「練学歯だより」の原稿を拝読し、校正をさせて頂きま
したが、頭脳明晰な先生方が多いことに感銘を受けました。側面からの発行価値「練学歯だより」を再認
識致しました。今後も宜しくお願い致します。

草 柳 英 二



練馬区学校歯科医会ホームページ
<http://www.nerigakushi.tokyo>

発行日 令和7年3月12日
発行 練馬区学校歯科医会
〒176-0012 東京都練馬区豊玉北6丁目5-13
TEL 3557-0045(代) FAX 3557-3553
発行人 草柳英二
担当理事 羅 均
印刷所 有限会社 かどや印刷
〒177-0042 東京都練馬区南田中1-20-13
TEL 3997-0370 FAX 3995-0594

KOSAKA コサカ ニトリルグローブ (単回使用) NITRILE GLOVES 200枚

ラテックスフリー パウダーフリー 左右兼用 未滅菌 指先滑り止め加工 単回使用

国際規格に適合した
安心のニトリルグローブ

■ 肌おもし

一次皮膚刺激・感作性試験 ISO-10993-10

■ 優れたフィット感と作業性

引張強度・最大伸長度 ASTM D6319

■ 安心のバリア性

耐薬品性 EN16523-1

血液由来病原体透過性 ASTM F1671

抗がん剤耐性 ASTM D6978-05

詳しい商品情報
添付文書は
こちらから



定価オープン

13B3X00551000277(一般) 非天然ゴム製検査・検診用手袋

製造販売元

株式会社 **コサカ**

KOSAKA DENTEL SUPPLY., LTD. TEL: 03-3557-4111 FAX: 03-3557-4116

〒176-0013 東京都練馬区豊玉中2-18-14

私たちは新たな付加価値を創造し、
モノにもう一度「命」を吹き込む会社です。

Make things regenerate.

We create and add extra values, in order to breathe "life" into matters once again.



Recycle

貴金属分析・精錬



Clean

産業廃棄物適正処理



Support

歯科研修会場 DHA



相田化学工業株式会社

歯科営業部

〒183-0026 東京都府中市南町 6-31-2

TEL: 042-366-1201 FAX: 042-366-3101

札幌・仙台・新潟・郡山・埼玉・千葉・神奈川・東京

甲府・長野・静岡・名古屋・大阪・広島・香川・福岡・鹿児島

